

国際プロジェクト・プログラムマネジメント学会
2009年4月

—学会ビジョン、研究方針、研究活動の案内—

1. 学会ビジョン 国際P2M学会の使命と活動

1.1 使命

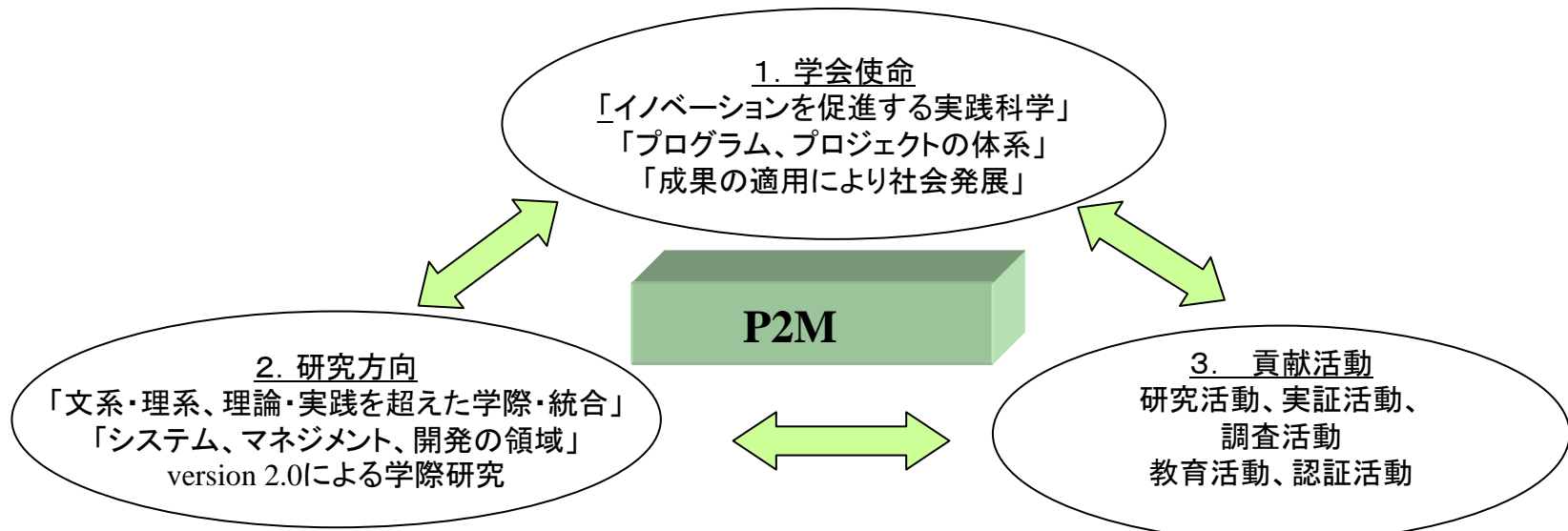
- ①姿勢： 学会は、高度な社会ニーズに対応して、イノベーションを促進する実践科学を追求し社会に貢献する。
- ②目的： 学会は、プログラム、プロジェクトマネジメントの学問体系の国際的研究と交流の場に発展させる。
- ③成果： 学会は、研究成果をさまざまな貢献活動を通じて社会発展に還元する。

1.2 研究方向

- ①学際統合： 学会は、文系・理系、理論・実践の壁を越えて、全体調和、全体最適を目指す学際統合研究を行う。
- ②研究領域： 日本発信のP2Mを進化させるシステム、マネジメント、開発に関する学際・統合研究を推進する。
- ③P2Mガイド： 学会は、研究者、実践者に対して、研究方向指針のためにIAP2M Version2.0を提供する。

1.3 貢献活動

- ①研究活動： ことづくり、ものづくりなど「仕組み」の考案、デザイン、実証に関する原則や知識を発掘する。
- ②実証活動： 開発者と事業家を融合したマネジメントを実証研究する。
- ③調査活動： 新技術やICT(情報通信技術)を活用した開発モデルの委託研究、教材開発、調査事業を行う。
- ④教育活動： 大学、企業と連携を利用したイノベーションリーダーの人材育成、研修事業、普及を行う。
- ⑤認証活動： 大学、企業と連携し、研修、能力検定により育成する。



2.1 学際統合とは

学際統合研究とは、複数の専門分野の個別知識を統合して、実践的課題を解決する学際研究を意味する。

- ①日本発イノベーション： 科学技術とビジネス創造を融合した日本発のイノベーション理論を提唱する。
- ②多目的問題： 学会は、文系・理系を超えて新領域を開拓し、多目的問題の解決に応える研究活動である。
- ③学際領域： 学会は、システム、経営、開発を中核とした領域の知識統合タイプの研究を行う。
- ④競争力再生： システム発想による仕組みを開発し、全体最適と相乗効果の創造的統合管理を追求する。

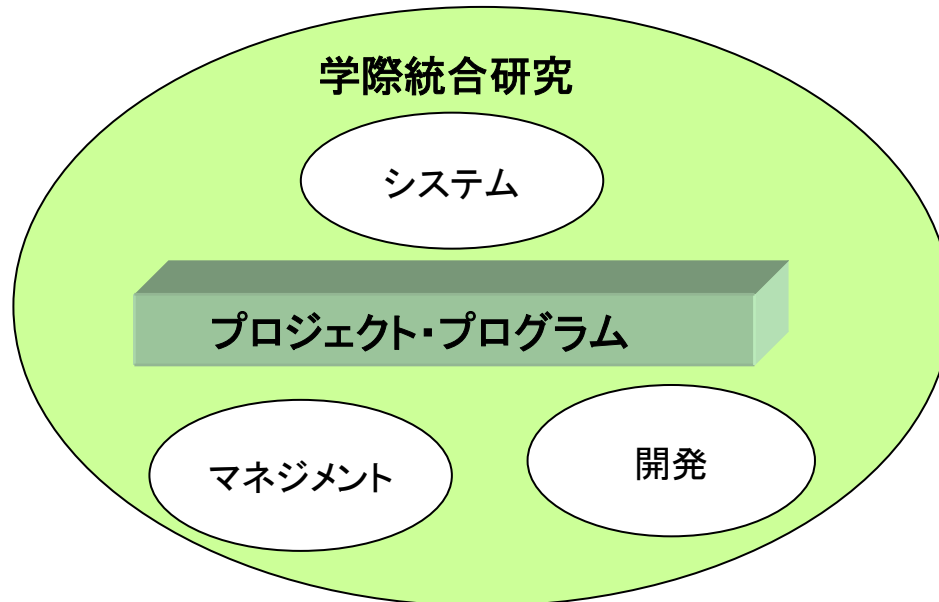
2.2 主な研究領域

プロジェクト・プログラムを切り口として、次の領域における学際統合研究を推進する。

- ①システム： 一般システム論、システム方法論、システム工学、システム保守、複雑系科学、
 関連： 計画科学、経営情報システム、経営工学、エンジニアリング・マネジメント、生産工学、S&G (Simulation & Gaming)、生産管理、知識工学、
- ②マネジメント： 経営学、経済学、組織論、金融論、会計学、マーケティング、技術経営、
 関連： 事業拡大・再生、国際化、IT経営 (ERP、SCM、BPR)、新規事業、事業提携、
- ③開発： ソフトウェア開発、地域開発、事業開発、製品開発、データ科学
 関連： 政策科学、開発経済学、社会工学、プロセス工学、創造工学、環境科学、人間科学、

学際統合とは

- ・日本発イノベーション
- ・多目的問題の研究
- ・複合研究領域
- ・競争力再生



- ・システムの領域
全体俯瞰に有効な学問
- ・マネジメントの領域
組織運営に有効な学問
- ・開発の領域
新知識獲得に有効な学問

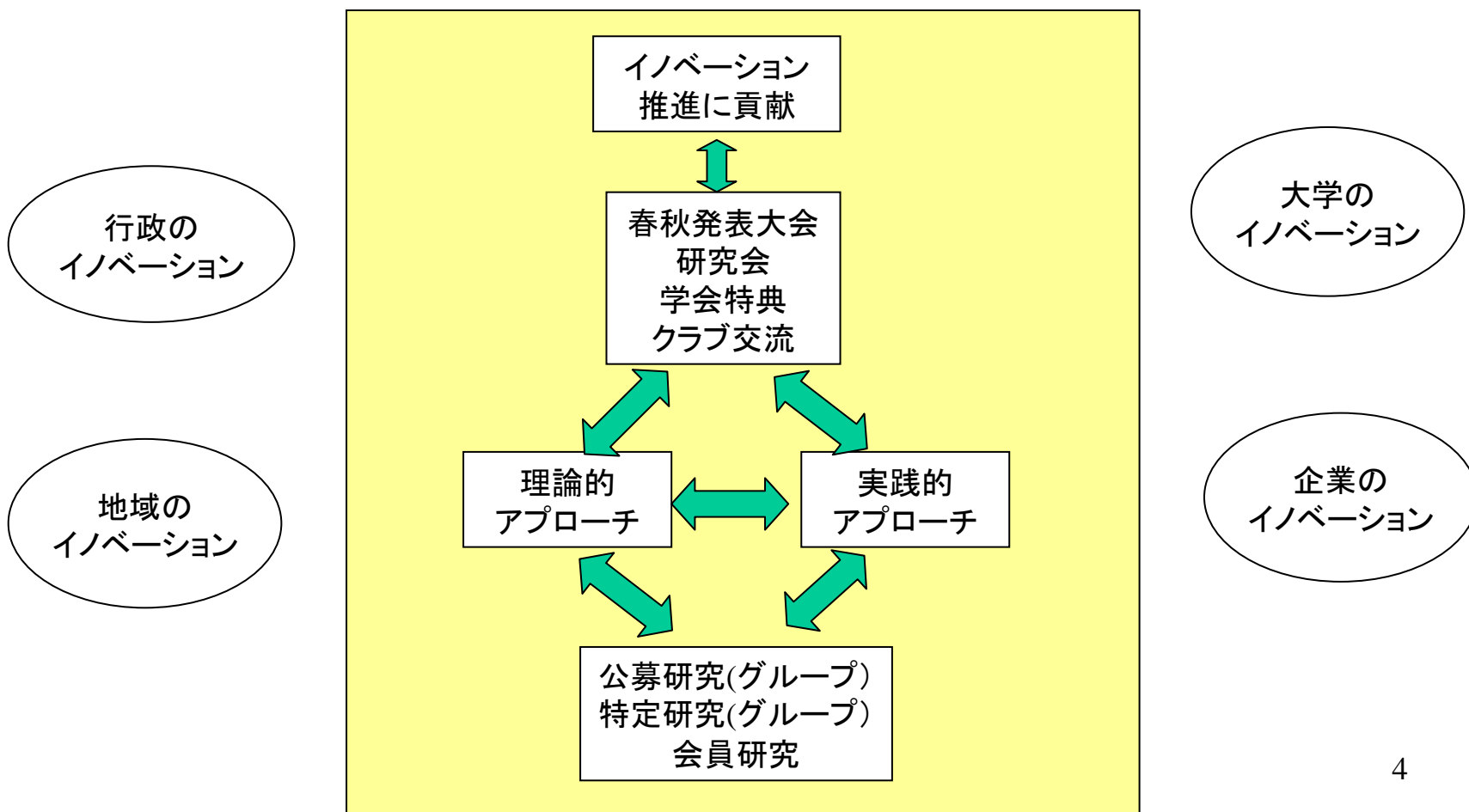
3. 研究活動 P2Mによるイノベーションを推進する研究活動

1. イノベーション推進

- ①学会： 行政、地域、企業、大学が直面するイノベーションをテーマに、学際統合研究の特色を活用し貢献する。
- ②機会と特典： 学会は、大会、研究会の機会を提供し、会員に参加、投稿、貢献に対して特典を付与する。
- ③クラブ交流： 学会は、会員相互の知識向上のため、話題性のあるテーマでクラブ交流を促進する。

2. 理論と実践の融合

- ①アプローチ： 研究テーマには理論的アプローチと実践的アプローチを統合して問題解決に取り組む。
- ②研究形態： 会員提案の公募研究、学会が計画あるいは協賛する特定研究、個人研究の形態をとる。



4. 1. 研究の進め方

- ①研究の方向性：学会ビジョン、研究方針、コンセプトの3点セットにより、理論と実践を両輪として研究活動を進める。
- ②P2M指針： P2M Version 2.0(別冊)を発刊し、会員相互のP2Mコンセプトの共有化とさらなる議論による独自の知識深耕を図る。

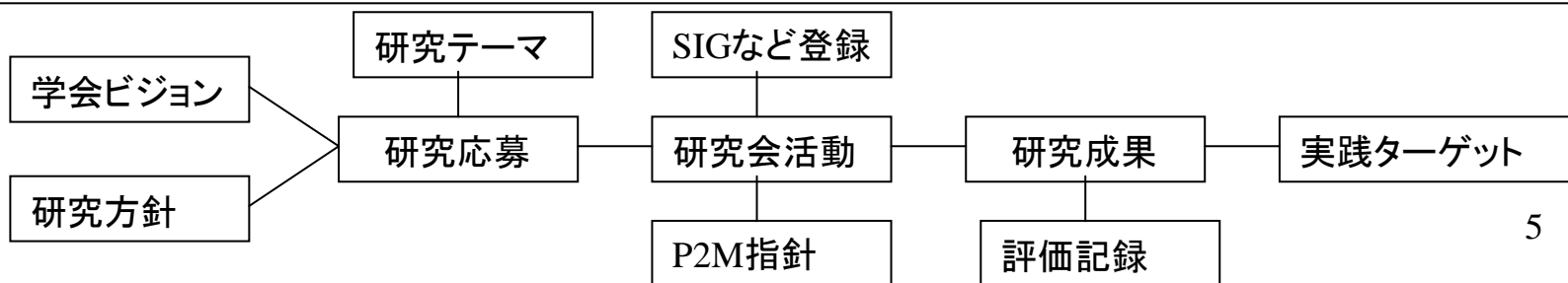
4. 2. 研究会

学会はP2MのVersion Upを図る研究を続けるとともに、以下3種の研究会を運営する。

- ①公募研究： 会員は、テーマ、研究趣旨、期間(1～2年)リーダー、アドバイザー、4名以上のメンバーを編成し、SIG(Small Initiative Group)に事務会に登録し記録できる。大会投稿や活動報告が望まれる。
- ②会員委託研究： 会員が大学、研究機関、企業から、委託研究を打診もしくは受託した場合には、可能な限り協力要請し、事務会に登録し、記録できる。
- ③特定研究： 学会は、会員の提案により、研究委員長の承認を経て、P2Mの主軸となる重要度や波及度の高い先導研究を実施する。

4. 3. 研究成果と実践ターゲット

- ①内外の認知度： 日本学術会議の協力指定団体として、公的機関の電子論文化などを通じて、内外に研究成果を発信し、学会の認知度を高める。
- ②大学の正規科目： 大学教育コースや専門職大学院のカリキュラムやテキスト編集に反映し、P2Mを技術経営、環境経営、新規事業、技術開発マネジメントなど正規科目へ採用を推進する。
- ③企業の実践研究： 企業における実践適用に注目して、企業や会員協力を得て委託型研究を推進し、できれば学会認定の領域別講師養成を目指す。
- ④人材能力開発： 領域別イノベーションの実践人材育成に向けて、企業カリキュラムや評価法を開発し、企業活動実績、会員活動の成果をポイント化した能力開発制度を今後整備する。



学会は、P2Mコンセプトによるイノベーション研究を推進する。以下主要なテーマに分類しその事例を示す。

5. 1. P2Mコンセプト

- ①P2Mコンセプト研究会(特定研究会)： 基本となるコンセプトを整理し、会員の理解を共有する。
- ②能力形成委員会(特定研究会)： 会員の人材育成、教育、資格認定を一体化した制度化と計画を推進する。
- ③AL・ナラティブ教育研究会(特定研究会)：P2Mに有効なプロジェクトやナラティブベースの教育法を開発する。

5. 2. 行政

- ①戦略技術の開発管理(特定研究会)： NEDOメンバーと学会関係者のP2M学習と意見交換を行う。
- ②パンデミック研究(特定研究会)： 東京工業大学研究グループに協賛し、学会で普及を支援する。

5. 3. 地域活性化

- ①コミュニティープラン(公募研究会)： 地域、空間、構造物、クラスター資源を利用した事例調査と提言を行う。
- ②環境配慮型ESCM(公募研究会)： サプライチェーンベースの環境経営プログラムの調査研究と行う。

5. 4. 国際化

- ①海外MBA教育(会員委託研究)： リール大学院、大阪大学の海外MBAに対し、P2Mカリキュラムと教育する。
- ②ODA適用研究(会員委託研究)： 政府開発援助やグローバル事業の実施手順や人材育成を検討する。
- ③技術経営委託研究(会員委託研究)： 国際機関の委託により、アジア10ヶ国のP2M教育を調査研究する。

5. 5. 生産戦略

- ①サステナブルP2M(特定研究)： 公的支援による生産戦略研究と学会会員の共同研究に協賛する。
- ②生産プロセスの科学的方法(公募研究)： 現場で変動する品質管理と合理化に関するデータ利用を研究する。

5. 6. 大学教育

- ①中小企業の経営改革(会員委託研究)： 大学院におけるP2Mによる経営変革の理論と授業を展開する。
- ②環境リスクソリューション(会員委託研究)： 大阪大学環境工学系によるCOE講座の委託を受けて協力する。
- ③開発マネジメント(会員委託研究)： 東京農工大学の技術経営講座にP2Mによる開発マネジメントを導入する。

5. 7. 開発戦略

- ①ITソリューション開発(公募研究)： 新規市場におけるITソフトウェアの効率的開発と組織運営を研究する。
- ②製薬産業の製品開発(公募研究)： ハイリスク・ハイリターン型の新薬開発におけるP2M方法論を研究する。

5. 8. 技術と経営の融合

- ①ビジネス・デザイン(公募研究)： 技術と経営の上流過程における事業構想と計画の方法論の研究する。
- ②オープンイノベーション時代の思考能力(公募研究)： 感性と論理を融合した新思考能力を検討する。⁶

